創立五十周年 日本テレマン協会

集 部

協力 日本テレマン協会

ます。 レマン協会後援会」という支援団体がサポートしていラ」と「テレマン室内合唱団」と有し、また「日本テを専門とする室内楽団です。「テレマン室内オーケストによって創設されたバロックからベートーヴェンまでレマン協会とは、延原武春氏(千二小 二十七回生)レマン協会とは、延原武春氏(千二小 二十七回生) 既にこの会誌で、何度も取り上げてきました日本テ日本テレマン協会とは

に私(萩原)のように「花より団子(お酒)」派には、いる人が多い」と聴衆を笑わせておりましたが、確か人に馴染みが薄く、テレビ・マンガのことかと思って目かの定期演奏会で挨拶された折、「テレマンって日本目が、上野の東京文化会館小ホールで開かれた何度 よって初めて知った名前であります。(萩原)のように「朮」。

> とし、 ハーモニー交響楽団などを指揮したことは皆さんにと以後氏は日本フイルハーモニー交響楽団、大阪フイル 形成しようとした「マンスリーコンサート」、宗教音楽りです。「定期演奏会」のほか、聴衆とともにサロンを 「テレマン・アンサンブル」を結成したのがその始まさ」をテーマに、新しい演奏会の可能性を追求すべく っても記憶に新しいことと思います。ハーモニー交響楽団などを指揮したことは皆さんに 09年ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章しました。ル楽器にて公演。これが引き金となって延原氏は20 を教会の聖堂で奏でる「教会音楽シリーズ」などを軸 さ」をテーマに、新しい演奏会の可能性を追求すべく延原武春氏が「バロック音楽の普及・啓蒙」と「楽し設立は1963年。当時大阪音楽大学の学生だった 「文化庁芸術祭優秀賞」、 2008年にはベートーヴェンの交響曲をクラシカ 一音楽賞」を関西の団体として初めて受賞しました。 ¹庁芸術祭優秀賞」、1986年「第17回サント関西を中心に全国的な活動を展開。 1977年

マに、 シック『国産』宣言」をはじめ様々なオピニオンをか ン」「ボルネオの森林保全プロジェクト」「関西発クラ 現在は「音楽団体が社会に対して出来ること」をテー 2011年。代表が延原氏から中野順哉氏に交代。 「琵琶湖の水質浄化」「街と音のコラボレーショ

テレマンとは 1681年3月14日~1767年6月25日。 1681年3月14日~1767年6月25日。 後期バロック音楽のドイツ人作曲家。バッハ、ヘン でオルク・フィリップ・テレマン。 があいました。代表的な作品は「食卓の音楽」という 結成しました。代表的な作品は「食卓の音楽」という 結成しました。代表的な作品は「食卓の音楽」という お成しました。代表的な作品は「食卓の音楽」という はいました。代表的な作品は「食卓の音楽」という はいった「人が喜ぶために作曲している」と いう言葉に感銘を受け、彼の名をかかげたグループを お成しました。代表的な作品は「食卓の音楽」という はいった「人が喜ぶために作曲している」と いう言葉に感銘を受け、彼の名をかかげたグループを はいった。 がオルク・フィリップ・テレマン。 せん。

く、ロンドンから様々な珍しい植物をヘンデルは彼宛いう逸話も残っています。またヘンデルとの親交は深の時を迎える際、後継者にその「次男」を名指したと男の名付け親でもあり、また自身がハンブルグで臨終大変面倒見の良い人でもあったようで、バッハの次

入って T って する際、 VI たとか とも有名な話です。予約者の最初の一 方に 7 ン へが ンデル の名前 が

、・・「それが日本テレマン協会の使命でもある」とたテレマン。彼の作品だけでなく、その意気を伝えたバッハ、ヘンデルにとっては「偉大な先輩」であっ入っていることも有名な書で、

日本テレマン協会の生立ち

- 124 -

経緯を『小説延原武春』より抜粋してここに紹介する。り、そして今日に至っている日本テレマン協会。その3人で権威に頼らない楽しい音楽をしようと立ち上がハーモニー管弦楽団が一枚看板だった時代に、たった1960年代、関西交響楽団つまり今の大阪フィル

東京で音楽事務所を開く。河野まり子を育てる)の2授となる)、宮島登美子(後に延原氏と結婚するが離婚に延原武春、北山隆(後に母校である大阪音楽大学教 はじ 武春、北山隆(後に母まりは学生たちのサー (後に母校である大阪音楽大学教ちのサークル活動で、1963年

に対する不満が彼らを動いした。晴らしい」と評されていた当時のオーケストラの音楽と同時に、学校で教えられる音楽、あるいは一般に「素と同時に、学校で教えられる音楽、あるいは一般に「素 演奏活動が禁止されていた。その規則を理不尽に思うめた。当時彼らの通っていた大阪音楽大学では学生の人が、学生の身のまま学校を飛び出して演奏活動を始 彼らの目指したのは「小人数」対する不満が彼らを動かした。

(大学である室内音楽。 (大学である室内音楽。 (大学に自分たちの活動が露顕しないための策だったのだと聞くが、大学側ではそれを直ぐにめの策だったのだと聞くが、大学側ではそれを直ぐにめの策だったのだと聞くが、大学側ではそれを直ぐにめの策だったのだと聞くが、大学側ではそれを直ぐにめの策だったのだと聞くが、大学側ではそれを直ぐにかの策だったのだと聞くが、大学側ではそれを直ぐにかの策だったのだと聞くが、大学側ではそれを直ぐにないたがな「生々しい」音楽。そんな思いを引っ提げて、名前が「大阪テレマン・アンサンブル」だった。この遠隔を活動禁止」という項目は、校則から消えてしまった。さてその名古屋での公演の際、彼らが名付けまった。さてその名古屋での公演の際、彼らが名付けまった。さてその名古屋での公演の際、彼らが名付けまった。

卒業後も彼らは活動 **しか「テレマン・アンサンブ** 圧力に耐えながら徐々にその を続けた。 ル」が「テレマン 規模を拡大してい そして既存の音楽団 室き

1979年に「日本テレマン協会」と改称し現在それら全ての総称として「大阪テレマン協会」を命 そして管弦楽団と合唱団を運営する事務局を設立し、1970年代になって延原氏は合唱団も組織する。内管弦楽団」となっていった。 に至

はでいる。 して市民会館、財団のサロンなど比較的小さいではにおける彼らのゲリラ的な演奏が時代のあったのか、次第に固定客を増やしていった。あったのか、次第に固定客を増やしていった。あったのか、次第に固定客を増やしていった。あったのか、次第に固ぎなかったが、街角、お茶り設時からの基本姿勢は変わらず、月一回淀屋橋も彼らの基本姿勢は変わらず、当時でいる。 以上の聴衆が詰めかっているでは、お茶の間、それが時代のニーズにをが時代のニーズにをが時代のニーズにといった。現在では、のでは、のでは、のでは、のでは、いいの

皮が高校時代にすでに感じていた、る。彼がバロックに、テレマンに傾倒に関す。 する不満であった。 彼が高校時代にすでに感じ 中野振一郎やテノー の作品が紹介され、このマンスリーコ コンサー またそこからチェンバンサートを舞台に多く ル歌手畑儀 成文などが 当時の でいったのながない。 口演奏者 本 邦 には、 初 T 演

こぼしてい んだろう」と氏は高校時 なはずでは 音楽がこんなに面白くないのは、どうしはずではなかった・・・ Ш Ĺ な 氏 時 T にな代

なか ケ スト った時代。 960年代、 ラの演奏を聴く、 クラシック音楽と言えば大ホン、バロック音楽なんて誰も認 これが常識であった。 ル でオ て

#台からお客さんに向かっていきなり喋り出す。実まく知っている某新聞社の文化担当記者の話。よく知っている某新聞社の文化担当記者の話。とする先の三匹の侍であった。とは、延原氏の駆け出し時代からとする先の三匹の侍であった。 いたクラシック音楽なんてちっとも面白うなかった。「大層なことばかり言って下手くそな演奏ばかりして

っていた と先の記者のしかファンがついて楽しい。「楽しいこと」 演奏して楽し /アンがついて、気がつ、ヒュー・「楽しいこと」にとことん忠実だった連中に「楽しいこと」にとことん忠実だった連中に と先の記者は当時を懐かしむ。 気がついたらそれが本業にな いく

用語 パロックの説明 (先の 小説からの説 明

to の」という から 8 の世 が紀 0 1 \exists 19世紀以降か の音楽で、「新 から現代に

至るまで バら 江 ロック、幕末は「新しいもの」江戸幕府が開いた頃がルネサンロック以前はルネサンスという **ルーケストラ** 幕末は 幕府が開いた へという。 0 シス、 に当 日本で言う たる。 がな

よりも小回りが利いて、! **室内オーケストラ** 小さな編成のオーケスト! バロック、幕末は「新し つまり、 どのような楽器を使うのその特徴。今の主流はオー ような楽器を使うのかということに重点が置 る。 ケスト 敏捷な演奏ができるのが ラ。 ケストラの人数より 大きなオーケス É ラ

を使 つて演奏するのが流行。り、18世紀当時の音楽を、 その時代の楽器

チが半音違う。 やる場合と昔の楽器でやる場合では、音が違う。 の楽器と今の楽器を使うのとの違 同じ「ド」の音でも、 現代の楽器 VI ピッ

アンサンブル

を演奏するときの少人数での編成のこ

とを言う。だい ンサンブルという呼ばれ方をする。 たい × Ō 以内の場合、

/エンバ

ピバチアロエ で弦をはじく。 口 ノノは弦を叩いれる を叩いて音を出すが、れの鍵盤楽器でピア、 パ、チェンクリのよう が口は は爪

そこで、 学は学生の手の届 チェンバロは高価で特殊な楽器 やして、 なかっ それで弦をひ 連中は最初、 そんなまや くところには 画鋲をピア まやかしで満足する連っかく即席のチェンバ 置な 1 いの 0 てな リエンバロを のフェルトに エか当 った。 中



指揮をする延原 武春氏

レマンを知ってる?

二十四回生

タ定期演奏会」 作曲 演奏会」を聴きに行って貰った解説アム・ジャパン(BCJ)の「バッは10年以上も昔、鈴木雅明氏主宰 大音楽家ゲオ 四家1681 ~1 ク・フ フィリ 67 ツ ブ 0 (主宰のバラ・テレマ 書ハの かカ ンタ 5 ツ めン でし 1 T 知

断ったため、バるかに有名で、 責任者 を作曲 きの ツ 声ハ したのは、ライプチヒの聖トー に就任したのが契機ですが、 曲力 、礼拝と関係のない ンター バッハにお鉢が回ってきたそうです。 最も尊敬されていたテレマンが就任を B (教会の礼拝時に唱う器楽伴奏付 世俗カンター 当時バッハよりは マス教会の音楽 タもある)

を主宰されていることを知り、 べてみました。 の後、千二小同窓延原武春さんが「テレ レマ 、ンの作品ばかりでなく、バッハなどテレマン協会は創立から50年にな テレマンについて少し マン協会」

- 128 -

動が主てのバロ 王ですが、東京でも年に何回て演奏活動を続けておられまロック音楽からベートーベン 里山会会員の皆様にも聴きに行かれることをおですが、東京でも年に何回か演奏会を開いてお演奏活動を続けておられます。大阪での演奏活ック音楽からベートーベンの作品まで古楽器を

ィヴァルデイ (1678~1741)、バッハ (168ネッサンス期を飛ばして、テレマンとほぼ同時代のヴ楽家の名前を思い出すと、グレゴリオ聖歌の後にはルずおりませんでした。小学校・中学校時代に習った音ずねりませんでした。小学校・中学校時代に習った音音楽に相当詳しい人でもテレマンの名前を知る人はま私の友達に機会あるたび「知ってる?」と聞いても、 がしルじっせべイ5理てズよてんード~ ような記述でした。ただ、現代の音楽としてビートていたやや最近の音楽教科書を見つけましたが、同にん。最近、家の押入れを整理していて、子供達が使ートーベンに至りますが、テレマンの名前はありまードン(1732~1809)と続き、モーツアルト、 理由だと思います。てテレマンの名前を知らぬ人が多いのはズが入っているのには驚かされました。 ン (1732~1809)と続き、アルディ (1678~1741)、アルディ (1678~1741)、 \(\)1759)\(\) 次の2つ 上、6

> (1) 7 (おそらく高校でも) ルディについては演奏会もよく前が無視されていた。

あり、テ バッハや 小・中学 やヴィ テレビ・ラジオで聴く機会もありますが、 ヴァル かと間点 知る位で T

タータとオペラなのですが、オペラは25とも40曲を一夕とオペラなのですが、オペラは25とも40曲な音書に基づきキリストの受難を劇的に唱う)など厖福音書に基づきキリストの受難を劇的に唱う)など厖協奏曲、管弦楽組曲、受難曲(マタイ・ヨハネなどの協奏曲、管弦楽組曲、受難曲(マタイ・ヨハネなどの協奏曲、管弦楽組曲、受難曲(マタイ・ヨハネなどの協奏曲、管弦楽組曲、受難を劇的に唱う)など膨大に出あり、ネット上でも「テレマン」で調べると厖大沢山あり、ネット上でも「テレマン」で調べると厖大沢山あり、ネット上でも「テレマン」で調べると厖大 6作品だけです。 とも言われる全作品の内、 古楽やバロ ック音楽に興味ある人々には参考書も ネ」があるそうですが 主な作品としては「寛容な品の内、完全な形で残って が、日本は勿論、「寛容なソクラテ るのは

などが などが多数残っているようです。たものはありません。他のオペラでも断片的にアリア欧米でも上演されることは滅多になくて、実際に聴け

も先 一般 3 V と見つけると見つけ V ありませんが、TUTAYA、A コ ることが出来ます。 ド店でテレマン作品のC mazo 求め n

736)と、 ンディ 期会が何度か取り上げています。 地で上演されるオペラ作品を残しており、 「オルフェオ」、「ポッペアの戴冠」など現在も世界各ンテヴェルデイは「ウリッセ(ユリッシーズ)の帰還」、デイ(1567~1643)は気になります。特にモ 66)と、ルネサンス音楽を代表するモンテヴ、、オペラでは前記のベルゴレージ(1710 は気になります。 特にモ I



ゲオルク・フィリップ・テレマン

おられることに、 道がやっと簡易舗装されようとしていた頃でした。 を思うと感慨深く、 んの頃テレマン・アンサンブルを立ち上げられたこと の昔延原武春さんが大阪音大のオーボエ専攻の学生さ しあげます。 7 思えば五十年前の千里山は、 ン協会の創立五十周年を心からお祝 敬愛の讃辞をお贈りいたします。 今も国際的に巾広くご活躍されて 住宅内の地 い申 あ

どれも大体三楽章なのに時間は十分前後ですから、 にテレマンも数曲ありました。 っておりました。バロックに戻ったのは十二年位前の ってLPを買い求め、 ロックの上流に向かわずに古典派・浪漫派とモーツァ 頃ヴィヴァルディを初めて聴いて感動しましたが、 ハープ・チェンバロ・ヴィオラ・マンドリン等々多彩で、 バロ 歳を越えた頃で、 独奏部はオーボエ・フル ック音楽といえばまずバッハ・ヘンデル、 -ヴェン・シューベルト・・・と下流に向か 数枚のCDを買い求めその中 大編成の管弦楽に慣れてしま バロックには協奏曲が ト・トランペット・ その

> めに出来た住宅地だけに大阪弁と一味違うのですね。 衆との一体感を醸し出し、 ら延原武春さんのことを聞かされ、テレマン・アンサン 数の作曲家のものを一度に楽しめるのが魅力でした。 アンサンブルによる「オー に千里山弁を感じ親しみが倍加しました。 晴らしい でこそよく解ると思いました。終演後ご挨拶があり素 の雄姿と意気の合ったアンサンブルの公演を聴きまし ブルの公演が東京であることを知って初めて延原さん 私の手許に、 五 マン・ 小ホー 六年前でしょうか、 お人柄を感じましたが、 ヴィヴァルディ・ ルでの柔らかい流れるような美しい音が聴 延原武春指揮とオー -ボエ協奏曲集」があります。 千里山会で萩原直大さんか バロック音楽の良さは公演 バッハ・ヘンデル・アル 関西アクセントの中 ボエ、 テレ 移住者のた マン・

舎です。 後輩の輩出を心から祈っております。 幸子様(六回生)が終生教鞭をとられたご縁のある学び 子様以来のこと、また大阪音大は伊達三郎先生・柳父 近道かと存じます。 千二小から音楽で国際的に名を馳せられたの 千二・千三から延原さんに続い て活躍される は東敦

ビノーニ・マルチェロの六曲(ナミ・レコード株)。

- 130 -

オーボエ奏者から指揮者になられた延原さんを知る

五月三十日の日経新聞夕刊に掲載

部

げられている日本テレマン協会。
たびたび新聞、それも何故か日本経済新聞に取り上

している。 七回生)・一中卒業生であり、日本テレマン協会創設者 で ル ある延原武春氏の、 ている。千里山会員ではないものの、千二小(二十今回も五十周年記念の異色の演奏会の数々を紹介 を送りたい。 千里山会員ではないものの 今後益々のご活躍

文化往来

阪市)

が講師として出演。プログラムも

楽団の存続にとって必

阪市)が創立50周年を記念して開団、日本テレマン協会(本部・大バロックを得意分野とする楽 旦、 首 (10日)、 教授(17日)という異色の顔ぶれ 家の橋爪紳也・大阪府立大学特別 大阪大学教授(4日)、建築史 奈良・興福寺の多川俊映貫 経済学者の小野善康 れがちで、楽団の存 ら成る。 ル」が母体。 (20人)と室内合唱団(50人)かりが母体。現在は室内管弦楽団 関西が地盤でしかもバロックが ファンも限ら

三味線の人間国宝・鶴澤寛治 的な近代建築4カ所で趣向を凝ら くほか、6月には大阪に残る歴史 関西各地で30もの無料演奏会を開 目を集めている。 く一連の事業が注 した演奏会を開く。 4つの演奏会にはそれぞれ文楽 バロック楽団テレマン50周年、異色の演奏会 8 を務める延原武春が1963年に など、 や、クライスラー来日公演の再現 創設した「テレマン・アンサンブ 創作講談との連携による音楽絵巻 テレマン協会は音楽監督・指揮 ひねりをきかせる。 は き手と一緒に音楽を作っていこう 活動は、経営環境が厳しさを増す 小、楽団でも50年続いたのは「聴 全国の楽団に一石を投じている。 とする姿勢が功を奏したからで (延原)という。テレマンの えない。そんな、弱 ずしも有利とはい

- 131 -